



信愛医療療育センター

しんあい

2021年10月11日 第1号

社会福祉法人明世会
信愛医療療育センター
愛知県豊川市小坂井町

大塚38番地1

TEL 0533-95-0980

FAX 0533-72-3050

ごあいさつ

信愛医療療育センター

センター長 麻生幸三郎

信愛医療療育センターは在宅の重症心身障がい児者とそのご家族の苦難に何とか手を差し伸べたいという大石理事長の願いを結晶化させた施設です。従来の重症心身障がい児者施設は歴史的経緯から、まずは、「入所ありき」でした。家庭でみきれない重複障害児の生活と医療の場を提供するというのが当初の重症心身障がい児者の基本コンセプトで、その後、在宅支援に事業を広げていきましたが、中心はあくまでも入所支援でした。しかし、当センターは、全国でもめずらしい「まず、在宅ありき」の施設です。重症児の短期入所が名古屋か春日井か浜松に行かなければ利用できないという東三河地区で、在宅重症児の方の生活を何とかしたいという想いで設立されました。在宅支援が当センターのレーゾンデートル（存在意義）ですから、できる限り在宅支援サービスを切れ目なく提供するのが最優先課題だと思ってやってきました。

ところが、Covid-19感染症のパンデミックはそれを危うくしました。一応、新型コロナ流行開始から現在まで約一年半、短期入所も日中一時支援もこども発達支援センターも生活介護もほとんど中断なく継続できてはいます。院内感染対策ワーキンググループが毎週のように、そして、ときには、週に何度も集まって、しっかりとした感染対策を立案し、必要物品を確保してくれたおかげです。さらには、職員全員が毎朝、体温を測定し、出入りの人の体温もチェックし、断腸の思いで面会を制限してきたことも寄与しているかもしれません。とにかく、過剰な感染対策を施さざるをえない一年半でした。一方で、大石理事長の音頭のもと、一般小児のCovid-19PCR検査、一般の方のワクチン接種もできる限り行いました。全国でこんなことをやっている重症心身障がい児者施設は

当センターだけのようですが、医療機関のコロナ対応に非難が集まる中、障がい児者施設として協力しうるギリギリのこゝろをこなすことができたという達成感があります。感染者数が減ってきたと聞くと少しは役に立ったのかとも思えます。しかし、一方で、感染対策に万全を期していた重症児施設の一部でクラスター感染が起きたという報告を聞くと、運のみに頼った綱渡りの一年半だったのかもしれないと、今さらながら、冷や汗が出ます。

しかし、人と同じで施設も苦難を乗り越えてこそ成長します。まだ、コロナパンデミックから抜け出せてはいませんが、収まった暁には、試練を糧とした新たな強靱な施設に生まれ変わっていることと思います。



女の子の患者様が描いてくださった似顔絵

入所より

開設して4年が過ぎ、令和3年9月現在45名の入所者の方と短期入所の方を合わせて50名程度の方々のお世話をさせていただいております。車椅子などに乗り、主に口からお食事ができる方のチームと人工呼吸器を使用し、栄養チューブを通して栄養を摂取する医療的ケアの多い方のチームの2つがあります。

～1日の生活～

- 6：00 起床・オムツ交換
- 8：00 食事
- 10：00 朝の会・個別活動
- 12：00 昼食
- 14：00 入浴・レクリエーションなど
- 15：00 お茶・おやつ
- 18：00 夕食

※おおよその1日のスケジュールです



誕生日会

毎日10時頃にホールに集まり、1日の予定発表をして体操や歌の時間を設けています。そうすることで、時間の感覚や1日の始まりを意識してもらいたいと思っております。

お誕生日の人がいる時は、みんなの前で発表し祝ってもらいます。その役割は支援員が企画運営しています。お誕生日会、成人式など、人生の節目となるような企画も実施しています。遊びや活動に時間を設けながら利用者の方々にとって楽しい時間となるように工夫しながら頑張っております。



特別支援学校に通学している子たちは数名いますが、今年1年生になったA君は、4.5月頃は学校から戻ってきて職員に背中や腰を触れられて静かにしていました。でも、6月頃には元気いっぱいになり、触れられると喜んで体を動かすようになりました。学校で、最初は緊張していたけれど、確実に成長している姿が見られるのは、スタッフにとってとても嬉しいことです。

療育センターでは通学だけでなく、訪問学級もあります。部屋の一部を利用してのミニ運動会では、校旗掲揚や玉入れなどの競技を楽しみました。普段は個別活動が中心ですが、行事を通して充実した時間となりました。



日中活動

利用者の方々とかかわる中で私たちが学んでいるんだなとしみじみ感じているところです。今後もよろしくお願いいたします！！

信愛こども発達支援センターは、医療型児童発達支援・児童発達支援と放課後等デイサービスの三事業を運営しています。家族や地域との情報交換を密にし、こどもたちのニーズと成長発達を把握したうえで「どきどき」「わくわく」するような特別な時間とともに、ひとりひとりに合った療育活動を行っています。

信愛こども 発達支援センターより



今年の4月から定数を縮小し、医療型児童発達支援1名、児童発達支援4名、放課後等デイサービス5名、計10名で運営しています。

それに合わせて、6月に改修工事を行い、新たなスタートとなりました。今まで使っていた訓練室の一部が生活介護めぐみの職員室になったりして、ちょっぴり寂しくなったりしましたが、出入り口近くに子どもたちのロッカーを設置したりして、できるだけ自分でやってみようという働きかけを行ったりしています。

児童発達支援では、毎日子どもたちや保護者の方たちと一緒に楽しく、季節にあった活動を行っています。コロナ禍で昨年は行われなかったプール遊びも今年は復活しました！！梅雨のような夏が続いたので大丈夫かなあ・・・と思っていた芋畑も、9月になったら葉っぱさんたちが元気に広がってきています。もうすぐお芋ほりです。



放課後等デイサービスでは豊橋特別支援学校、岡崎特別支援学校、地域の学校など異なった年齢の子どもたちが元気に通ってきてくれています。

9月の活動テーマは・・・

「信 ♡ 運 動 会」



「カゴごと入れちゃう？」



「一緒にやろう」「〇〇したら、みんなで楽しめるんじゃない？」など、みんなで看板から種目、当日の流れなどを時に円陣を組んで相談しあうことで、社会性を育むことも大切にしています。

本日の競技は「玉入れ」カゴではなく、動くカートの中にボールを入れなければいけないので、難しさレベルMaxです。

いざ、競技が始まると負けず嫌いな職員たちも、つつい・・・ということもありますが、それも楽しいですね？



当施設の病院やリハビリ施設を併用するという強みを生かし、専門スタッフが様々な視点からお子さんの成長・発達とともに子育てを応援しています。



事務所 外来より

令和3年4月より職員への新型コロナワクチンの接種が始まりました。また、5月末からは高齢者や一般の方への接種も開始され、たくさんの方が当センターにお越しになっております。利用者の皆様にはご迷惑をおかけしております。そのため、外来診察と予防接種の受付を別々にしたり、コロナワクチン予約専用ダイヤルを設けることなどの取り組みを行っています。



接種の様子



コロナワクチン接種受付

令和3年9月1日現在、1000人を超えるワクチン接種を実施致しました。信愛グループでは信愛医療療育センター以外にも、しんあいクリニック、大石医院でも実施しております。

周辺住民の方々からは、

「ここはどんな施設なの？」

「こんな近くに病院があったんだね」

など様々な声がありました。当センターが開設されてから4年が経ちますが、どんな施設なのか知らなかったという声が多く聞かれ、今回接種を行うことで、地元住民の方々に当施設のことを知っていただくよい機会となりました。

緊急事態宣言は解除となりましたが、当センターに来所される方には、引き続き検温と手指消毒の実施をしておりますので、来所時には受付スタッフに声を掛けて頂きますよう、引き続きのご協力をお願い致します。

感染者も増加する中、早く収束することを祈りながら、スタッフ一同協力し頑張っていきます！！



コロナワクチン接種会場





リハビリテーション科より

～こどもたちや利用者の方の 笑顔を大切にしたい～

リハビリテーション科では、理学療法士（PT）4名、作業療法士（OT）2名、言語聴覚士（ST）1名にて外来リハビリテーション・入所者児の方のリハビリ・通園施設での取り組みやご相談を行っています。

【理学療法】

- お子さまの成長に合わせた運動発達に対するアプローチ
- 車椅子や装具の相談
- 身体の緊張を緩めることで日常生活を楽しく安楽に過ごせるよう姿勢のケア・呼吸へのアプローチ

【言語療法】

- 発達に遅れがあるお子様に対して何が苦手なのかを一緒に探していく
- 楽しく安全に食事が取れるようにアプローチしていく



★トランポリンでの感覚遊び★



【作業療法】

- 遊びや活動を通して楽しみや興味を見つけていく
- 姿勢や環境にアプローチすることで、より遊びやすい・楽しめる工夫を一緒に考えていく

★作業療法での紙すき体験★



児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護など施設内のサービスと併用してリハビリもご利用していただく方も多く、他職種と連携しその人の生活に寄り添いながらリハビリができることも療育センターのリハビリの特徴です。



リハビリ室



言語聴覚室



作業療法室

重度な障がいをもっていても、「自分の気持ちをたくさん表現できる」「できない事に目を向けるのではなくどうしたらできるのかを一緒に考える」少しでもその人らしさを引き出すお手伝いやご家族の力になりたいとスタッフも取り組んでいます。



生活介護 めぐみより

生活介護めぐみは、18歳以上～65歳未満の主に重症心身障がい者、知的障がいを伴う身体障がい者（障害支援区分3以上で支給決定が受けられる方）、難病指定の方を対象とした通所事業所になります。

現在は20歳から57歳の方が、1日あたり10数名の方が利用されています。東は豊橋市内から、北は新城市近くの方まで、朝から送迎車はフル稼働です！！

令和3年6月に利用者の活動スペースを広げましたが、リクライニング型の車椅子やベッドで過ごされる方がほとんどなので、まだまだ狭いです。でも、昼食後にはみんなでゲームをしたり、ギターが弾けるサービス管理責任者の演奏に合わせて（アカペラ）カラオケをしたり、合唱会をしたりと楽しく過ごしています。たくさんの方々がゲスト出演し、笑いの渦に包まれております。



お湯ランド めぐみ？



生活介護めぐみの活動の目玉である入浴支援は、利用者にとっても楽しみのひとつです。2階入所部門が午前中入浴をしないので、来られた方はほぼ全員その時間に入浴してもらおうようにしています。

センター1階の廊下を車椅子で横断し、エレベーターを使って、2階にある浴室に移動するのは“銭湯”に向かっているみたいです。



めぐみで大切にしていることのひとつに、利用者の一人一人に役割を担ってもらい、日中活動の内容の立案や手話がコミュニケーションの方はそれを他の利用者に伝えることなどをしてもらっています。みんな自分の気持ちをしっかり出してきています。



大
激
論
？
め
ぐ
み
ク
ラ
ス
会

コロナ禍に巻き込まれて、はや1年半。
外出行事をすることもままならず、沸々することが多い日々ですが、めぐみの仲間たちは元気に毎日通って来てくれています。

「第5回てんかんをめぐるアート展2021」



日本てんかん学会は5年前から、てんかんのある人とその周りの人々のアート作品を募集し、毎年、学術集会にあわせて「てんかんをめぐるアート展」を開催してきました。今年度は9月23日から3日間名古屋国際会議場にて行われました。

てんかんは乳幼児期と老年期をピークとしてすべての年齢層で発病する疾患群で、日本では100万人近くが罹患していると推定されています。しかし、てんかん発作の時以外はほとんどの方が穏やかな生活を送ってみえ、絵画など熱心に描いている方も少なくありません。

その中にはプロ並みの発想と技量で創出される方もみえますが、多くはそうした専門性とは無縁の場所で黙々と作品を手作りされています。にもかかわらず、独自の発想で紡ぎ出されたそうした作品は心打たれるものは少なくありません。

それを何とか人々と共有したいとの思いから5年前から始まったのが「てんかんをめぐるアート展」です。既存の美術、文化とは無縁に製作された芸術作品をフランスの画家ジャン・デュビュッフェはアール・ブリュットを名づけました。

今回、信愛医療療育センターの利用者様とご家族様より作品を出展致しましたので、紹介させていただきます。

てんかんをめぐるアート展2021

委員長 麻生幸三郎



中村征矢様の作品「猫とボール」

三輪真子様のご家族様の作品

「マスク刺繍」



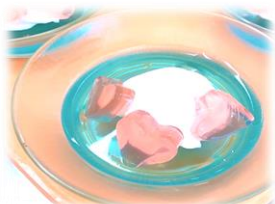
栄養科より

寄附でいただいたブルーサイダーを使って手作りデザートを作りました。炭酸のままだと飲みにくいですが、ゼリーにすることで炭酸も抜けて食べやすい爽やかなデザートができました。

信愛グループの食事は ～医療・介護・福祉専門給食サービス～

株式会社 萬屋東海

が調理をし、メニューやカロリーについては管理栄養士が介入しておりますので、利用者に合わせての食事の提供ができることが療育センターの強みです。



食形態は4種類（固形食、一口大、なめらか食、ミキサー食）あり、詳しい内容については次回ご紹介させていただきます。当センターではなめらか食を食べられる方が多いですので、全員が同じように食べられるメニューを厨房スタッフと一緒に日々考えています。



周年祭「夏祭り」について

平成29年7月に開所し、翌年の8月に1周年祭が行われ、以降「夏祭り」として毎年、利用者、利用者家族、地域の方々を対象に施設開放を行ってきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の関係で、昨年度に続いて今年度も夏祭りは中止となりました。

夏祭りの代わりに、令和2年度は「つながり」をテーマに療育センター利用者の合同作品を展示しました。今年度は「クリスマス」をテーマに、12月上旬頃に展示をします。その後は地域交流の一環として、信愛グループの各事業所での特別展示も予定しています。



令和2年度の作品



～直接支援職員募集～

看護師、生活支援員、保育士を募集しています。
募集人数は それぞれ若干名。

問合せ先

信愛グループ本部人事担当 (0533) 56-9230

または

信愛医療療育センター事務 (0533) 95-0980